

大学運動部の女性競技者と指導者の信頼関係 ー筑波大学体育会運動部員を事例としてー

天羽 礼

第2期スポーツ基本計画によると、2016年現在の日本のスポーツ指導者の割合は、男性72.5%、女性27.5%で、男性指導者が圧倒的に多い。また、2013年に公表された文部科学省「運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告書で、「信頼関係」は学校運動部の指導者と生徒の人間関係の重要な要素であるばかりでなく、スポーツ全般におけるコーチと競技者の関係においても重要な要素であるとされている。

先行研究においても、植田(2006)は、「コーチの言動や態度が選手に変化を起こさせる。変化は選手の動きで、あったり、情動で、あったりする。時には、それがパフォーマンスを左右することにもなる」と述べ、指導者と競技者の関係の重要性を指摘している。また、岡田ほか(2015)は、高校柔道部員の指導者に対する信頼感の研究において、日本の高校柔道部員と指導者の信頼関係が他国と比べて低いことが示唆されている。しかしながら、女子選手が同性の指導者から指導を受ける機会が少ない状況の中で、信頼感などの関係性が指導者の性別によってどう違うかを検証した研究は見られなかった。

本研究は、成長段階において、自己管理能力や心理的スキルが備わってくる時期にある大学生の女性を対象とし、運動部で競技を続けている女子選手と指導者の関係性、特に指導者の性別による差を明らかにすることを目的とする。また、太田ほか(1998)は、大学卒業後の女子学生の競技スポーツ継続の阻害要因として「他の目的志向」「仕事との両立」「周囲女性の影響」を示しているが、今後女性がスポーツをしやすい環境を構築する上で、先行研究から四半世紀の歳月が経過しようとする現在において女子選手が抱える阻害要因を確認することも目的である。

研究方法としては、Zhang & Chelladuraiによる「競技者のコーチへの信頼前提条件と結果」(ACAT)翻訳版を用いて、コーチに対する信頼等に関する評定を測定するとともに、大学卒業後の競技継続の意思と指導者に求める資質・能力等について調査した。筑波大学の体育会運動部で女子選手が在籍する25団体中協力が得られた19団体に所属する女子選手342名を対象にGoogleフォームで質問紙調査を行い、149の有効回答を得た。

その結果、競技者のコーチへの信頼前提条件と結果の8項目全てにおいて、指導者が女性である方が、得点が有意に高いという差が見られた。女性から指導を受けている女子選手は指導者に対する信頼度や指導者への協力や成績向上などが、男性から指導を受けている選手よりも高いことが分かった。また、女子選手は、競技だけでなく、日常生活での不安や悩みを抱えており、指導者による安定した日常生活面への支援が競技力向上には重要であり、今後、女子選手特有の心理面でのサポート、練習や試合に集中できるような環境やシステム作りをすることが重要であり、それらの面からも女性指導者の増加が望まれる。

(指導教員 歳森 敦)